

首都大学東京特任教授、株式会社青木茂建築工房主宰の青木茂氏は、リファイニング建築という再生建築の手法で、日本建築学会賞業績賞や、「高根ハイツ」などのリファイニング建築の実績でグッドデザイン特別賞を受賞するなど数々の受賞歴を持つ。老朽化が進む建物をリファイニング建築で再生し、日本のまちづくりハードの面から挑む青木氏の取り組みを紹介する。

### 33歳のターニングポイント

安藤忠雄氏との出会い

大学を卒業し、建築現場などを数多く経験しましたが、実は27歳の時に少林寺拳法の道場を開き38歳まで行っていました。しかし、結婚して家庭もあり、道場だけでは食べていけなかったため大分県で設計業を始めました。道場の一番弟子が現場監督をしていて、彼から「建築科を卒業しているのだから設計をやればいい」と勧められたのがきっかけでした。建築士にはライセンスが必要なので、そこから勉強を始め一級建築士の資格を取りました。生活が落ち着き出した頃、いささか将来に行き詰まりを感じ、『新建築』という建築雑誌で企画されたヨーロッパ建築ツアーに参加しまし

たが、「居ながら施工」という誰もが経験していない設計と工法に惹かれ、設計を請け負うこととしました。結果的には大変うまく完成したと思いますし、入居状況も満室になっております。しかし、この方からはあらゆる因縁をつけられ、結局、監理料を払ってもらえませんでした。裁判を起こそうとしましたが、争うよりも博士論文を書こうと思い立ち2005年に博士号を取得しました。56歳の時です。そこからリファイニング建築の設計施工の研究を進め、リファイニング建築を広めることに注力しています。

### 建築のお手入れ

#### 耐震化による修繕

「夢のマイホーム」と言って日本

#### ■あおき しげる プロフィール

##### 略歴

大分県生まれ。  
首都大学東京特任教授 株式会社青木茂建築工房主宰。  
大連理工大学客員教授 博士(東京大学工学)。

##### 受賞歴

1999	グッドデザイン特別賞
2000	JIA環境建築賞
2001	日本建築学会賞・業績賞 BELCA賞
2002	エコビルド賞
2005	グッドデザイン賞
2008	グッドデザイン賞
2010	グッドデザイン賞、グッドデザイン特別賞、JFMA賞
2012	グッドデザイン賞、 日本建築防災協会理事長賞、耐震改修貢献者賞

など多数

##### 著書

「住む人のための建てもの再生」  
「REFINING CITY × SMART CITY」  
「長寿命建築へ」  
「団地をリファイニングしよう。」 など

た。それは当時の花形の建築家を講師に招く企画で、安藤忠雄さんが講師の回に参加しました。31年前です。今思えば、これが私のターニングポイントだったのではないかと考えています。

安藤さんからは、「お前アホやな、何も知らんな」と檄を飛ばされましたが、その後、親しく交流していただ

き一緒に海外旅行などに出かけました。欧州や東京にはデザインの情報が多くあり、インターネットなどの情報伝達ツールがなく建築雑誌のみが情報源であった当時、地方には圧倒的に情報量が少ないことを実感しました。

その後、40歳を前にして『新建築』にも作品を発表するようになりました。しかし、その頃からデザインだけで走り抜ける難しさを感じるようになりました。流行の移り変わ

りは激しい。5〜10年でデザインは消費され、途端にアイデアが出なくなる。そこで技術をベースに据えて建築を考えたらどうだろうかと思

い、技術論によるデザインが私の進むべき道だと方向転換しました。

#### 居ながら施工の依頼

##### 耐震強度偽装事件の波紋

2001年の日本建築学会賞業績賞の受賞を機にアカデミックな世界に没入しました。そんな折、ある方から依頼を受けます。マンションに住んだまま耐震補強や再生ができないか、という依頼です。

依頼主は法学部出身で、弁の立つ方でした。当時、耐震強度偽装事件が起こり、打ち合せなどを行う中でこの方は設計料を払ってくれないのではないかと何となく感じていま



人は細部にまでこだわりを持って家を購入します。しかし、住み始めてからは、長く住むためのメンテナンスを考えなくなります。そして、地震などの災害が起こるとようやく修繕などの検討を始めます。逆に言えば、地震や災害が起こるまでは考えないということです。

建築を女性にたとえるとわかりやすいと思います。内面も外面も磨いている女性は4代になっても20代と見違うほど若々しく美しく感じます。彼女たちは日々の努力を惜しまず、自分を磨くために様々なことに取り組んでいるでしょう。建築も同じです。常に美しく保つ努力をすれば、相応の耐用年数が確保されるのです。

欧米の建築は、古代ローマ時代の

建築家ウィトルウィウスが『建築十書』の中で用・強・美を説き、用途、強度、美観のどれか一つでも崩れることを許しませんでした。その教育のためか、現在でも施主の手により住宅の壁のペンキを塗り替えた

りする習慣があります。日本の建築の寿命は30年程度と言われていますが、同様にメンテナンスの努力を怠らなければ、50年でも、100年でも建て替えずに住み続けることができるのではないのでしょうか。

#### 建物を「再生」させる

##### リファイニング建築

さて、その建築物のメンテナンスには、リフォームとリノベーション、そしてリファイニングの3種類があります。リフォームとは、床の

## リファイニング建築で日本の未来を救う 技術で立ち向かうまちづくり